

## 国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム (SDG-UP) 第 3 回分科会 (第 13 回ワークショップ) 開催

第 3 回 SDG 大学連携プラットフォーム (SDG-UP) 分科会 (第 13 回ワークショップ) は、2021 年 12 月 14 日にオンラインで開催されました。SDG-UP 参加大学 23 校から 51 名が出席し、1) SDGs カリキュラム、2) 大学評価・アカウンタビリティ、3) 大学間等連携、4) マネジメント、をテーマとする 4 つの分科会が行われました。

今回開催された各分科会の議論概要は次の通りです。

### ・SDGs カリキュラム分科会

2022 年 4 月から、当分科会で開発中のカリキュラムにおける教材を授業等で活用したいとする大学があることをふまえ、コンテンツ案を出した 12 大学により制作中。90 分の講義ビデオ 15 回分により構成される教材の迅速な完成を目指している。将来的には UNU-IAS の Certificate Programme として認可を得られる内容にしていきたい。2022 年 3 月 30 日に予定している総合討論会では、提供コース 15 回分の授業それぞれを約 1 分間にしてつなげたダイジェスト版を制作し、50 分の持ち時間内に披露する予定である。総合討論会は UNU-IAS から是非プレスリリースを出していただき、プロジェクトの周知をはかりたいと要望。

### ・大学評価・アカウンタビリティ分科会

上智大学サステナビリティ推進本部の調査による、SDGs17 目標ごとの海外の上位 5 大学の取り組み状況と特徴を発表。上位のオーストラリア、ニュージーランド、カナダの大学は、研究環境が整っており、地元との連携が強いこと、数値化に力を入れたレポートの充実と、情報公開が進んでいる点などについて指摘があった。また、前回決まった SDG-UP 参加大学を対象としたアンケート調査について 14 校から回答があったことを報告。設問の検討 (数、聞き方、日本語の訳文) や評価プロセスの明確化などへの要望が寄せられた。3 月の総合討論会では 1) THE インパクトランキングにおける日本の大学と世界の大学との比較、2) アンケート調査、3) 筑波大学と北海道大学の取り組み紹介の 3 点を発表予定。

### ・大学間等連携分科会

大学間の具体的な連携の可視化を目指し、事例集や Web ページ、オープンアクセスのデータベースなどにより対外的に発信するという大学間連携の方針を確認した。SDG-UP 参加 32 大学の先駆的な役割を尊重しつつ、他の大学の活動をサポートし、より多くの大学を巻き込んで行くとともに、企業、自治体との連携および国際連携にもつなげてゆきたい。3 月 30 日の総合討論会では、大学間連携のさらなる展開と方向性について、日本的な発想から見た SDGs 推進の取組みに焦点を当て、議論を深めるためのパネルディスカッションを行う。発表内容については再度機会を設けて発表者の間ですりあわせを行う予定。

#### ・マネジメント層分科会

これまでの3回の議論をふまえ、大学マネジメントの視点で、大学内においてサステナビリティを組織的に推進・浸透させるための提言をすることを前提に、各大学のSDGsの達成に向けた具体的な取り組みの発表を行った。参加大学の成功例や現状の課題を確認し、今後の展開が期待される様々な事例が共有された。3月30日の総合討論会では、大学のマネジメント層が取り組むべき項目に関して何らかのコミットメント・リストを策定し発表することになった。その際、各大学それぞれの環境、規模、体制などの多様性を考慮し、取り組みやすい柔軟なアクションを検討する。1月中旬に再度議論し完成版を作成する予定。

4つの分科会の討議を終えて、村田俊一関西学院大学総合政策部教授（SDG-UPアドバイザー）は、このプラットフォームが、非常に早いスピードでAction oriented（行動志向）に前進していることを指摘しました。3月30日の総合討論会では、カリキュラム分科会は、12大学が協力してカリキュラムを策定するという今までにない試みのもとで作った教材を提示する予定であると述べ、他分科会も様々なアプローチで改革の方向に向かっていることを強調しました。そして、話をまとめてそれで終了ということではなく、それぞれのアクションが相互につながって継続していくことへの期待を表明しました。村田教授は、この分科会において、新しい大学間協力のあり方について模索する良い原案ができたと述べ、総合討論会での発信は画期的な試みになるであろうと強調しました。

SDG 大学連携プラットフォームのチェアである山口しのぶ UNU-IAS 所長は、COP26に参加した際の記者会見において、UNU-IASは、パリ協定の具現化に際し、若い世代の人材育成のため、パリ協定に特化した大学コースの2年後の開設予定について発表した事を報告しました。また2022年4月から6月にかけていくつかの重要な国際会議が開かれるので、SDG-UPの取り組みをいろいろな場所で発信していきたいと述べました。さらには、1年目の提言にもとづいて早いスピードで議論が進んでいることを評価し、2022年3月30日の総合討論会ではさらに具体的な方策に関しても話し合いたいと述べました。各分科会での決定事項に関しては、プロジェクト参加大学とともに、サイドイベントなども視野に入れ、積極的に公開する努力を続けていきたいと総括し分科会は終了しました。

参加大学 23校（アルファベット順）

愛媛大学

広島大学

北海道大学

神奈川大学

国際基督教大学

国際大学

金沢大学

慶應義塾大学

関西学院大学

九州産業大学

九州大学

ノートルダム清心女子大学

お茶の水女子大学

沖縄科学技術大学院大学

大阪医科薬科大学

大阪公立大学

大阪大学

上智大学

東海大学

東京都市大学

東京工業大学

東洋大学

筑波大学